

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 2020年 3月 31日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

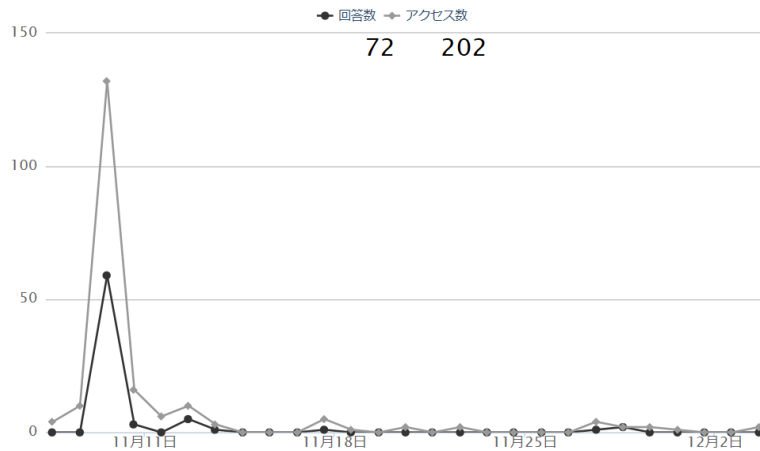
実施団体	
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業	
企画名	
令和元年度厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発活動 オンライン公開セミナー「緩和ケアを受けながら～治療も、仕事も、生活も～」	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
プレスリリース、公式イベントサイト及び Facebook での事前告知、本学会および後援団体によるホームページ・会員宛てメーリングリストでの告知、日経オンラインへのバナー広告、新聞・公式ホームページでの告知記事掲載と URL・QR コードによる視聴案内	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2019年11月10日(日)16時00分～17時30分
実施場所	コングレスクエア日本橋 ホールB [東京都中央区日本橋1-3-13 東京建物日本橋ビル2階]
参加人数	ライブ配信視聴数:582人(会場参加者:19人)
具体的な実施内容:	
—第一部—	
16:00～16:30 がん体験者インタビュー「わたしが『がん』になるなんて」	
ゲスト:室井 佑月 氏(がん体験者)	
インタビュアー:上村 恵一 氏(北海道医療センター 精神科医長 緩和ケア室長)	
インタビュアー:尾阪 咲弥花 氏(東京衛生 アドベンチスト病院 緩和ケア内科)	
—第二部—	
16:30～17:30 ディスカッション「緩和ケアを受けながら ～治療も、仕事も、生活も～」	
パネリスト:天野 慎介 氏(全国がん患者団体連合会 理事長(がん体験者))	
パネリスト:辻本 由香 氏(ファイナンシャルプランナー キャリアカウンセラー(がん体験者))	
パネリスト:大橋 洋平 氏(海南病院 緩和ケア内科(がん体験者))	
パネリスト:伊藤 由美子 氏(兵庫県立がんセンター がん看護専門看護師)	
パネリスト:品田 雄市 氏(東京医科大学病院 医療ソーシャルワーカー 認定がん専門相談員)	
パネリスト:吉田 沙蘭 氏(東北大学大学院教育学研究科 准教授)	
進行:上村 恵一 氏(北海道医療センター 精神科医長 緩和ケア室長)	
進行:尾阪 咲弥花 氏(東京衛生 アドベンチスト病院 緩和ケア内科)	
※オンライン公開セミナー終了後には「会場参加者との意見交換会」を実施した。	

当日の様子

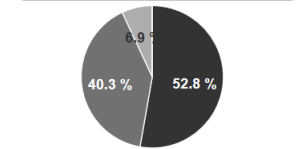


効果について(アンケートの結果など)

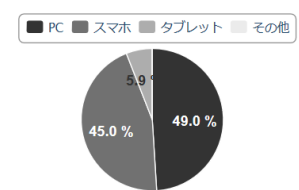
オンライン公開セミナーWEB アンケート結果 ※令和元年 11 月 10 日(日)~12 月 5 日(木) 時点



回答デバイス



アクセスデバイス



Q1. あなたの性別をおしえてください

女性: 46 男性: 26

Q 2. あなたの年代をおしえてください:

10 代以下: 2 20 代: 3 30 代: 9 40 代: 28 50 代: 15 60 代: 10 70 代以上: 5

Q 3. あなたの住居地をおしえてください:

北海道: 16 東北: 1 関東・甲信越: 27 北陸・東海: 9 関西: 6 中国・四国: 6 九州・沖縄: 7 その他: 海外等: 0

Q 4. あなたの属性をおしえてください:

がん闘病中の患者である: 12 以前にがんと言われていたことがある: 3 がん患者の家族である: 6
現在がん患者でもその家族でもない: 4 医療従事者: 38 学生: 3 その他: 6(大日本住友製薬、医療従事者でがん患者家族、がんサバイバー、社会保険労務士、もと医療従事者、製薬会社)

Q 5. 本日の放送はどのように知りましたか?(複数回答可):

新聞広告: 12 WEB 広告: 8 WEB サイト、SNS など: 22 友人・知人などの紹介: 26 その他: 12 (六華ゼミ
／上村先生からメールをいただきました／学会の広報／緩和医療学会からのメール／学会からのメール／
所属学会の案内メール／病院のがんサロンで伝え聞いた。／がん相談支援センター／仕事上で知った／日
本緩和医療薬学会からの案内メール／学会からのお知らせ／緩和ケア医師)

Q 6. 本日の放送をご視聴いただいた理由をお聞かせください(複数回答可):

患者として情報を得るため: 19 家族・友人として情報を得るため: 12 仕事に活かすため: 49 学業に活かすため: 3 その他: 5(ピアサポーターをしているため、参考のために。/ピアサポーターとしての学び/主人を3年前にすい臓がんで亡くしました。その後社労士となり、障害年金等の社会保障を専門家として伝えていくお手伝いができればと考えたため/自分のこと、家族のこととしても興味があったため/患者さんに紹介するため)

Q 7. 本日の放送について、どのテーマに興味を持たれましたか？(複数回答可):

がん体験者インタビュー:「わたしが『がん』になるなんて»: 52

ディスカッション:「緩和ケアを受けながら ~治療も、仕事も、生活も~」仕事に関する内容: 50

ディスカッション:「緩和ケアを受けながら ~治療も、仕事も、生活も~」生活に関する内容: 48

ディスカッション:「緩和ケアを受けながら ~治療も、仕事も、生活も~」子供への伝え方に関する内容: 31

Q 8. 本日の放送について、内容はいかがでしたか？

よく理解できた: 59 普通: 12 あまり理解できなかった: 1

Q 9. 本日の放送について、放送時間はいかがでしたか？

短かった: 4 ちょうどいい: 56 長かった: 12

Q 10. 今後、緩和ケアに関する放送があれば視聴されますか？

また、緩和ケアを普及啓発するため、ご意見等ございましたらお聞かせください(500文字以内)

する: 56 しない: 15 内容による: 18

・お金のこと気になるので、ファイナンシャルプランナーはもっと詳しい人に話して欲しいです。

・緩和ケアと一言と言っても幅広過ぎるので、わかりにくいように思う。今日の話は別に緩和ケアと特別視しなくても、医療従事者として当たり前にするべき対応だろうと思う。緩和ケアみたいな特別なことということではなく、病気になって不安な事の解消法としての普及が重要な気がする。がんだから特別でもないと思うし、緩和ケアががん患者だけのもののような事でもないと思う。

・視聴アクセスが簡単でよい

・緩和ケアという言葉はまだまだ末期を連想させるのが現状です。こうして「診断された時から」というイメージの普及はとても大切かと思えます。自宅でオンラインで視聴できるとも助かりました。ありがとうございました。

・緩和ケア病棟に勤務しています。本日はたまたま広告を目にし視聴できましたが、このような機会はあまりないと感じます。録画ができるなど、見過ごした時に再視聴できると嬉しいです、同僚にも勧めることができます。

・私は口数少なくあまり表情を外に出さない性格ですが、周囲の方の接し方にアドバイスを戴きたい。

- ・放送の中でも話があったが、緩和ケアというと終末期のケアというイメージがあり、患者や家族の認識を変えていく必要があると思う。医師や看護師、ソーシャルワーカー、またこうしたセミナー等でいつでも受けられるケアであることを患者に伝えていくことが大事ではないかと思う。
- ・一般の患者さんにも幅広く広報してほしいです。
- ・緩和ケアの範囲がファジーのような気がします。
- ・緩和ケアという言葉の理解が、今まで自分が考えていた事とちがうのだなという事に気づけたのが、公開セミナーを視聴して良かった点です。ありがとうございました。
- ・緩和ケアそのものは大変広い分野ではあるけれど、このきそを普及する必要があると思う、まだまだのようですね。
- ・病院も、緩和ケア科に対する工夫を、してほしい。
- ・MSW をしていました。癌に限らず、緩和ケアの必要性を非常に感じる立場にありました。患者さんの不安な気持ちを聴くこと、寄り添うことはできますが、限界が常にありました。それは同じ思いで支援してほしい医療関係者に緩和ケアの意識があまり無かったことでした。残念ながら私は支えあう医療関係者を得ることが難しかったので、MSW を続けることができませんでした。もっともっと医療関係者、医師はもとより、看護師に広がることを心より願っています。癌だけでなく、それはどのような病気にも有効なものの考え方だと思います。苦しいとき、人生の最後にどのように過ごせるかは、患者というよりは、人間として大切な部分だと思います。
- ・一回 10～15 分程度で定期配信できるのがベストかなと思いました
- ・元看護師です。潜在看護師が多数いるとおもいますので、臨床は、長く離れていて、復職にはじしんがないのですが、言いやすい、話しやすい医療者としてなら、何かお手伝いできるのではないかと思います。現場の看護師さんが忙しいのは、よくわかるので、そういう看護師の活用があればと思いました。
- ・高額療養費は病院で説明を受けますよね？ファイナンシャルプランナーは一体どんなことを教えてくれるのかよくわかりませんでした。調べたところ、病院で相談受けているファイナンシャルプランナーがもういるみたいです。
- ・WEB での視聴は 1 時間を超えると少し長く感じます。ただ、今回のようにセッションが分かれており、分割して視聴することが可能な場合は聞きやすいと思いました。個人的にはパネラーの方と比べると実際の患者群はもっと生活に困窮され、判断が難しい患者さんが多いと思います。医療者に対してのメッセージ、患者さんに対するメッセージ、患者さんのご家族に対するメッセージを分けて伝えて頂けるとより参考になりそうな気がします。
- ・私自身、癌闘病中で看護師として働いています。両方の立場で拝聴しました。患者さんに情報提供しつつ、我慢せずに相談してもらえるよう、環境を整えていきたいと思います。現状は本当に忙しく走り回っているので、もっとゆとりをもって働ける環境にしていけないといけないと思いました。

当日参加者アンケート結果 ※令和元年11月10日(日)実施

- ◆ 当日申込数:14名(うちメディア関係者 1名、学会関係者 13名)
- ◆ 当日参加者: 6名(うちメディア関係者 0名、学会関係者 6名、アンケート5名分回収)

1. あなたについてお教えてください

●基本情報等

- ・ 性別:女性4、男性1
- ・ 年代:30代2、40代1、50代2
- ・ 居住地:東京都4、愛知県1
- ・ 職種:医師3、看護師1、学生1

●イベントに参加された理由をお聞かせください(複数回答可)

- ・ 仕事に活かすため4、緩和ケアに興味があったため3、家族・友人として情報を得るため1、学業に活かすため0、その他1(当事者であり、友人・家族であり、医療者でもあるので)

2. オンライン公開セミナーについてお教えてください

●どのテーマに興味を持たれましたか?(複数回答可)

- ・ がん体験者インタビュー:「わたしが『がん』になるなんて」4、ディスカッション:仕事に関する内容5、ディスカッション:生活に関する内容4、ディスカッション:気持ちの伝え方に関する内容4、会場参加者との意見交換会1

●内容はいかがでしたか?

- ・ よく理解できた4、普通1、あまり理解できなかった0

●講演時間はいかがでしたか?

- ・ 短かった0、ちょうどいい4、長かった1

●今後、緩和ケアに関するイベントや講座があれば参加を希望されますか?

- ・ 希望する2、内容による3、希望しない0

3. 緩和ケアを普及啓発するために有益と考えられる方策、広報手段、催し等について、ご意見等ございましたら、ぜひお聞かせください。今後の活動の参考にさせていただきます。

- ・ 「専門家にまかせる」「痛みとかつらいことは、多くの人に言えば言うほど軽くなる」という室井佑月氏の言葉を、患者さんに知ってもらい、受けとめる場所が緩和ケアであることを、診断医・かかりつけ医の先生から伝えてもらえるようにすることが大事だなと思いました。
- ・ 患者さんの体験:生のお話がとても参考になりました、
- ・ 緩和ケアの良いところ、もっともっとありますので伝えていきたいと強く思いました。ありがとうございました。